



# 図書館だより1月号

令和8年1月16日(金)  
福岡県立柳河特別支援学校

今月の詩

令和7年度の3学期がスタートしました。1月から3月は、年度末にむけて1年間のまとめをする時期ですね。「1月は、いく」「2月は、にげる」「3月は、さる」と、この時期をあらわすことばがあります。あつというまにすぎる3学期をたいせつにすごしてください。



## 干支(えと)



2026年は午年(うまどし)ですね。十二の動物をどのように決めたかについては、元日のあいさつで神様のもとを訪(おとず)れた順番という説(せつ)がよく知(し)られています。ねずみを先頭(せんとう)に、うし、とら、うさぎ、りゅう、へび、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのししの順に着(つ)いたというお話です。ほかにもいろいろな説があり、十二支は人々に親(した)しまれるように動物をわりあてたとされています。十二支にあてはめられた動物の漢字には幸せを願う、さまざまな意味がこめられ、その年の干支の動物を飾(かざ)ると縁起(えんぎ)がいいといわれています。

## 今月の新刊



### 【墨字】

- ・学研 まんがでよくわかるシリーズ226 でんぷん、水あめのひみつ
- ・学研 まんがでよくわかるシリーズ227 橋(はし)のひみつ

## 今月のなぞなぞ

- ① 1月がいちばんあつくて、12月になるといちばんうすくなるものってなあに。
- ② 元旦(がんたん)にはふたつ、元日(がんじつ)にはひとつあるものってなあに。
- ③ お正月に「ひく」ことはできても、「おす」ことはできないものってなんででしょう。

## 早春賦(そうしゅんふ)

吉丸(よしまる) 一昌(かずまさ)

春は名(な)のみの 風(かぜ)のさむさや  
谷(や)の鶯(うぐいす) 歌(うた)は思(おも)えど  
時(とき)にあらずと 声(こゑ)も立てず  
時(とき)にあらずと 声(こゑ)もたてず

氷(こおり)解(と)け去(さ)り  
さては時(とき)ぞと 思(おも)うあやにく  
今日(きょう)もきのうも 雪(ゆき)の空(そら)  
今日(きょう)もきのうも雪(ゆき)の空(そら)



春(はる)と聞(き)かねば 知(し)らでありしを  
聞(き)けば急(いそ)がる 胸(むね)の思(おも)いを  
いかにせよとの この頃(ころ)か  
いかにせよとのこの頃(ころ)か

### 【意味】

春とは名前(な)だけで、まだ寒い風(かぜ)がふいています  
谷(や)のうぐいすも歌(うた)おうと思うのですが  
まだその時(とき)ではないと思い、声(こゑ)も立てません

氷(こおり)も解(と)けて、葦(あし)は、角(つの)のような芽(め)を  
出(だ)しています  
さては、もう春(はる)だと思うのですが  
あいにく今日(きょう)もきのうも、雪(ゆき)の空(そら)です

春(はる)と聞(き)かなかつたら、知(し)らないでいたものを  
聞(き)いてしまったから、気(き)がせかせられるこのおもいを  
いったいどのようにしたらいいのだろう

## なぞなぞのこたえ

① カレンダー



② ひらがなの「ん」



③ おみくじ

